ないおん
10月号
2024 令和6年

育心

自己中心の色メガネ

龍谷大学非常勤講師　小池秀章

以前、こんな話を聞いたことがあります。

「二人の男が仲良く旅をしていました。森を抜けると、遠くに綺麗なお城が見えてきました。一人の男が、『綺麗な赤いお城だね』と声をかけました。するともう一人の男が、『何を言っているんだい。あれは、綺麗な青いお城だよ』と答えました。『赤いお城だ！』『いや青いお城だ！』とお互い一歩も譲りません。先程まで仲良く旅をしていた二人は、ついに喧嘩を始めてしまいました。そうこうしていると、向こうからお釈迦さまが歩いてこられました。そこで二人の男は、お釈迦さまに聞いてみることにしました。『お釈迦さま、あそこに見えるお城は赤いお城ですよね』『いえいえ、あれは青いお城ですよね』二人は尋ねました。するとお釈迦さまは、『あれは赤いお城でも青いお城でもないよ。白いお城だよ。お前たちは、それぞれ赤と青の色メガネをかけているから、白いお城が赤や青に見えるんだよ』と言われました。二人の男はあわてて色メガネをはずすと、綺麗な白いお城が輝いているのが見えました。その後二人は、また仲良く旅を続けました。」

この話は、私たちが常にものごとを、心の色メガネをかけて見てしまっていることに、気づかせてくれます。

では、私たちは、どのような色メガネをかけているのでしょう。それは、「自己中心の色メガネ」です。

例えば、人を見た時、「いい人・悪い人」「好きな人・嫌いな人」というように、無意識の内に、区別をしています。嫌な言い方になりますが、正確には、「いい人・悪い人」がいるのではなく、「自分にとって都合のいい人と、都合の悪い人」がいるだけなのです。そして、都合のいい人を好きと言い、大切にするけど、都合の悪い人を嫌いと言い、冷たく扱うのです。そのように人を分け隔てして傷つけ、同じように分け隔てされて、傷つけられているのです。

つまり、「自己中心の色メガネ」によって創り出された世界の中で、お互い傷つけ合っているのが、現実の私たちの姿なのです。そして、その色メガネは、はずそうとしても、はずすことができない、厄介なものなのです。

だからこそ、自己中心の心を離れたさとりの世界（すべてのものが光り輝く世界）を、聞かせてもらうことが大切なのです。そして、「自己中心の色メガネ」をかけていることを、忘れないようにしたいものです。

泥洹（ないおん）とは、
心に喜びを感じていく世界、
幸せを幸せと受けとめていく
世界なのです。

子育ちフォーラム

子どもの育ち探しのすすめ

和洋女子大学教授　矢藤誠慈郎

子育てをしていると、子どもが育っているかどうか心配になることがないでしょうか。実は、子どもの育ちを見つけたり楽しんだりする良い方法があります。それは、保育所の保育士が使っている「保育所保育指針」、幼稚園の教諭が使っている「幼稚園教育要領」、認定こども園の保育教諭が使っている「幼保連携型認定こども園教育・保育」を子どもの姿に照らしてみることです（以下、「指針・要領」）。

指針・要領ではいずれも2章に、保育の「ねらい」と教育の「内容」が同じ内容で示されています。そして幼児教育・保育施設では、小学校の国語や算数といった「教科」とは違う、「領域」から子どもの姿を見取ります。領域には「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つがあり、各領域には3つの「ねらい」が示されており、さらに各領域にそれぞれ8～13項目の「内容」がリストアップされています。この「内容」に挙げられている項目を子どもの姿に照らし合わせてみるのです。

例えば、喜んで屋外に遊びに出たときには、健康の「③進んで戸外で遊ぶ」という姿ですし、一生懸命靴下を履こうとしていたら、人間関係の「③自分でできることは自分でする」という姿の芽生えと見ることができます。「丸いね」「さんかっけい！」と言っていたら環境の「⑨日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」姿です。バイバイと手を振っていたら、言葉の「⑥親しみをもって日常の挨拶をする」姿ですし、「これチクチクするね」と言っていたら表現の「①生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ」でしょう。

できていないことではなく、何が育っているかを見つけようとすることで、子どもが日々の生活や遊びの中で、いろいろな力を育んでいることが見えてきます。日々の何でもないような子どもの姿や言葉が子どもの育ちの表れであることが見えてきて、少し楽しくなります。

ただし、指針・要領は保護者のみなさんが守らなければならないものではありませんし、乳幼児期の発達には個人差が大きいので、すべてができている必要もありません。育ち探しを楽しむガイドブックとして、気軽に触れてみてください。

※「保育所保育指針」のQRコード

生きている心

ことばあそび

さいとう　みわ（五歳）

「だ」からはじまることば　なーんだ
正解は
「だ・い・す・き」でした
みわは
ママのこと　だーい好き

千里敬愛幼稚園編
「生きている心」第八十三集より

お話の時間
つきみとほし
34

文・絵　三浦明利

さつまいもはどこにできる？

先生クイズを出しました。
「さつまいもや、ピーナツは
いったいどこにできるでしょう？
ひとつ　高―い木にできる
ふたつ　暗―い土の中
どっちかな？」
りんごが好きなほしくんは、
木になるいもを想像し、
木になるほうに手を挙げます。
「こたえは畑でみつけましょう」

手袋着けて、長靴で、
一列になり、畑まで。
着いたら先生言いました。
「みんなで　このつる　引っ張って」
みんなで力を合わせたら、
土の中からたくさんの
さつまいもがワッサワサ。
「木にできるんじゃなかったの!?」
土の中からピーナツも、
ワッサワッサと出てきます。
服も顔もどろんこで、
夢中になって掘りました。
「赤ちゃんみたいにちっちゃいの」
「やったー　ほれた！　でっかいの」
かごに山盛りとれました。

おうちに持って帰ったら、
「お母さん　これを料理して」
「スイートポテトつくりましょ」
つきみちゃんとほしくんは、
いもをつぶして、まるめます。

スイートポテトができあがり、
ホクホクおいしくいただきます。
ほしくん　おいもをいただいて
お父さんに言いました。

「聞いて　聞いて　お父さん
このおおきなさつまいも、
木になってると　思ってた」
するとお父さん言いました
「そんなわけ　ないじゃないー」
ゆでたてピーナツつまみつつ、
お父さん続けて言いました。
「枝豆が木になるように、
ピーナツは木にできるよな？」
ほしくんが言いました。
「そんなわけ　ないじゃないー
土の中から出て来たよ！」
「初めて知った　そうなのか」
「何でも知ってるお父さん
知らないこともあるんだね」
みんなで楽しく笑います。
おじいちゃんがやってきて、
「大人も　一生　勉強じゃ」
さつまいものつる　持っています。
「昔は食べ物　なくてのお
いものつるも　食べていた
つるでつくった　きんぴらじゃ
食べてみるかい？　うまいぞぉ」
みんな初めて食べました。
ほしくんが言いました。
「シャキシャキしておいしいなぁ
初めて知るって楽しいな」

私の雑記帖

私は音のない世界で手話(しゅわ)べり

教念寺副住職　古賀顕乗

私は難聴の世界に生きています。生まれたときは聞こえていた耳が、生後10ヶ月ごろ、化膿性髄膜炎により感音性難聴になりました。現在、補聴器を着用し、口話と手話でコミュニケーションをとっています。手話べり(手話でおしゃべり)もします。

私の耳の聞こえについては【聞こえるけれど聴こえない】。音は聞こえるけれど、話している方の言葉を一生懸命に聴いてもハッキリと聴こえないのです。手話だけではなく口話を使って、文と文の前後をイマジネーションしながらパズルのように組み合わせてコミュニケーションをとっています。ですから、今の時代のように相手がマスクをされていると理解しにくくなります。一層、手話が大切なコミュニケーションとなるわけです。

世界共通の手話「アイラブユー」

2025年は世界各地から3000人を超える聴覚障害者が集うスポーツ国際大会【デフリンピック】が東京で開催されます。誰もが手話で「ありがとう」と伝えることができる、そんな雰囲気を作れるように盛り上げていってほしいですね。

そして、手話だけではなく、難聴の世界を広めていってほしいです。私も微力ですが、【好きな言葉を手話で。】というテーマで写真の撮影をし、SNSなどで難聴の世界を発信しています。

きこえる人、きこえない・きこえにくい人が筆談でもいいし、ジェスチャーでもいいし、スマホで打ち込むでもいいし、多様性のコミュニケーションがあることをお互いに認め合い、「しょうがい」が「しょうがい」にならない社会を目指しながら個性を尊重していくことを望みます。

『仏説阿弥陀経』に「青色青光　黄色黄光　赤色赤光　白色白光　微妙香潔」とありますが、これは「みんなちがって、みんないい」ということ、そしてそういう世界はとても美しいということを表していると思います。

「かわいそう」ではなくて、きこえない・きこえにくい人ときこえる人を比較することなく、それぞれの違いを認め、正解を求めず、インクルーシブ(包括的)で豊かな社会を目指していけたらいいなと思っています。

かるた48 ―仏さまのおこころ―

りゅうじゅ(龍樹)さま　みなみインドのおぼうさま

お釈迦さまが亡くなられてから、五・六百年後、南インドに龍樹(一五〇―二五〇頃)というお坊さまが誕生されました。インドでの名前は、ナーガルジュナといいました。龍樹さまは、お釈迦さまの説かれた仏さまの教えを、空(くう)という思想によって、説明してくださいました。そして、仏さまのおこころの大切なところを、明らかにしてくださったので、日本の多くの宗派でも、仏教を伝えてくださった偉大なお坊さまとして、仰がれています。